



変える会報告

1月11日から、毎週「かえる」会をしています。メンバーは生田、表、梅原です。パンジーを当事者中心にするにはどうしたらいいか話し合っています。会議では、パン、クリエイティブ、パンジーⅡ、グループホーム、わくわくのリーダーを決めました。そして、当事者と支援者のリーダーで、4月から何をするか話し合いました。給料のことや講演会のこと話し合いました。そして、当事者の会の支援者も決めました。

以下、3人の感想です。

おもしろかったこと、楽しかったこと

- ・今年、かえる会がはじまって、3人で話をして、当事者のリーダーを決めた。それがおもしろかった。(職員もどこどこ行くとか、3月30日にはっきりする。ここで、ぼくは会議にいっぱいいてることを、みんなに聞きたい。もうちょっと少なくしたいなと思ってる)

- ・私は「かえる会」のメンバーで、私と生田さんと梅原君と3人でいろんな事をしたのがおもしろかった。

- ・メンバーのリーダーを決めたのがおもしろかった。支援者ぬきで決めたのがよかった。スウェーデンのグルンデン協会のようにしたいな。

不安だったこと

- ・これから、心配や。4月からうまくいけるか、それが心配。まだリーダーが何をしたいかわからんやろ。だから僕は不安。

- ・「かえる会」で話をしているときに、いろんな意見が出て決まらなかった時に、「けんかになったらどうしよう」と思って心配でした。

- ・いろんな事を決めるのはむずかしいな。今もこれからどうしようか考えている。なんでも楽なことはないな。

これからしたいこと

- ・どらえもん会とか役員会とかに新しいメンバーが入ったらいいなと思ってる。

- ・3人で在宅の障害者の家庭訪問に行き、がんばりたいと思っています。

- ・リーダーで話し合っ、仕事をふやしたい。支援者にも力を貸してもらわなあかん。ちょっと待った！支援者は「当事者で決めて」と簡単にゆうけどしんどいぞ！どうまとめたらいいかわからんやん！支援者、なんでもかんでも任すな！

パン屋

「イライラしたらシワが増える」

毎週月曜日は幼稚園の給食パンの仕込みで大忙しです。およそ400個分のパンを作るのに大量の生地をこね、分割し、まるめるといった作業で、仕事にも余裕がなくなり、ついイライラしがちです。思わずパン生地を投げつけてくなってしまいます。そんなときはTさんが、「〇〇さん、イライラしたらアカン。シワがふえるで!」と冗談をいい、その場が和みます。当事者同士だからでしょうか。「イライラしたら・・」はいまパン屋さんの流行言葉になっています。

そんなパン屋に当事者リーダーが誕生しました。4月からは売り上げの目標や、販売、営業についてなど、いろんなことを一緒になって考えていこうと思っています。シワがふえないようにゆったりと、しかし手早く仕事をこなしていくのが4月からの目標です。
(梅本)

クリエイティブ

あたりまえせん

冬の厳しさもやっと終わりを告げ、春の柔らかな風が気分をよくしてくれる今日この頃。皆様、いかがお過ごしでしょうか。クリエイティブ部門では皆様の力添えの下、チョコレートの販売が終わり冬のボーナスも出すことができました。本当にありがとうございました。さて、クリエイティブでの新たな報告をと言いますと、前号でも紹介したTさんです。今まではクリエイティブでの作業をずっと頑張っていました。突然(以前から?)パン部門に興味をもって遊び感覚で行くようになりました。同時に無理にクリエイティブに帰ってもらったりして、Tさんと支援者がぶつかり合う場面もありました。でも、しだいにパン部門に行く日が多くなり支援者もあまりにもパン部門で楽しそうにしている姿を見て、パン工房に入るのだったら、ちゃんとエプロンをつけて手も洗って働く意識を持ってもらおうということになりました。今ではパン部門の当事者にエプロンを着せてもらい自身で手を洗い、工房の道具などを運んだり、粉の計量部隊の一員として頑張っています。そして、当事者がしたい事、やりたいことをしてもらったらよいこと、Tさんは自分がやりたいことをあたりまえに表現してやりたい仕事をがんばっていることを改めて気づきました。

(竹内)



先日、2001年度の仕事の当事者リーダーに決まったHさんFさんと支援者のリーダーとで、高松の作業所「らでいっしゅ」に研修に行ってきた。らでいっしゅは約10年の経験があり、一日120～150個のお弁当を作っています。卵焼きを任されている人もおり、「一人ひとりがそれぞれの仕事をきっちりしていた」というHさんの感想を聞きました。普段は楽しい雰囲気を作ろうと人を笑わせてばかりいるHさん、この日は手を後ろに組み真剣な表情で作業を見学していたそうです。リーダーになって何をしたらいいかと不安な気持ちが先立っていたFさんも、「らでいっしゅ」で作ってきたハート型のおにぎりを持って帰ってきて、自慢げに勧めてくれました。二人にとってはリーダーとしての仕事の始まりになったと思います。もう一人のHさんもパンジーでお米洗いをしながら「速かった、速かった」と見てきた印象を伝えてくれました。ほかのみんなも彼らの報告を真剣に聞いたり写真を見て、やる気をおこしていました。

今回の研修に行ってきたものを、パンジーで活かすことが2年目の目標になることと思います。この1年間、初めての仕事を一からのスタートで、みんなで試行錯誤しながら本当によくやってきたと思います。一人ひとりにとって仕事への自信や責任感の土台ができました。「盛りつけは難しいけど配達はまかしとき！」という人も何人かいます。春になって暖かくなってきたので、みんなで営業に出て、近くのお客さんを増やしていく予定です。

園芸では毎年恒例のプリムラ花鉢を、鴻池東小学校と玉川小学校の卒業式に108鉢、納めることができました。寄せ植えからリボン作りラッピング、メッセージカード作りと楽しんで仕上げました。新年度は季節の花鉢の宅配年間契約をとっていく予定です。

1月から始めた「しじみ」のお客さんも40人となり「とてもおいしい」と好評です。

この一年を振り返ると、「暴力はあかん」と話し合ったときも、自立したかったメンバーが調子を崩したときも、やはりみんなで助け合ってやってきました。もう何が起きてても大丈夫。自信を持って目標にチャレンジして行って欲しいと思います。

(にっちゃん)

グループホーム日誌

柔らかい舌をもつ人と

私はつばさに2年も関わっているので多分当事者にとって公平だったり客観的だったりしないのだ。皆个性的で私もまちがった行いを彼らにしているだろう。お互いに学び合うより先に、私が学んだ事の方が大きい。彼らは自身として成長している。注意しているのは、彼らをめぐる環境について疑えるものは全て疑い、フラットな土台で考える。でも疑ってばかりでは生活はやっていけない。彼らだって迷ってばかりの介助者といえるのも辛かろう。だからその時やれそうな事からやる。やりたい事から。疑うが迷わない。とはいえ入浴のタイミングを間違えると当事者に怒られる。どうしたらよいかじっくりと見るしかない。幸い泊まりでは悩まずに結構寝れてる（私が）。

見ていて思うのは、Tさんは腕や足に障害がある。車椅子を使う。この人はにも関わらずハサミ使いが上手。自分のカバンだって壊してしまう。舌の使い方も器用でびっくりする。唇のはるか下、もうアゴといわんばかりの所についている米粒をべろり。見事だ。

石川和広

パンジーのグループホームに仕事に入るようになり、7ヶ月が経ちました。今「青空」に週2回、「てくてく」週1回入り、メンバーの人たちとも楽しく、仲良く過ごしていますが、最初のころはNさんの現実離れた会話に戸惑ったり、Uさんの言葉を聞き取ってあげれなかったり、Kさんと会話が弾まなかったり、介護することのしんどさよりも、会話をしてどこまで話しをきいてあげる事ができるかということの方が大変でした。

メンバーの人たちに気を使ってもらいながら、グループホームの生活にもなれてきて、一緒に買い物や散歩に出かけたり、たくさんの会話をしながら夕食を食べたり。メンバーの人たちの優しさに支えられて無事に半年、パンジーで過ごせました。

4月から授産の仕事が主になりますが、メンバーの人たちと一緒にハンガーや配食サービスなど、いろいろがんばっていきたくて思います。

山根洋二

グループホームより

Nさんは、買い物に行くのをいつも楽しみにしています。バレンタインデーまでの間、彼女は買い物に行くたび、チョコ売り場を興味深そうにじっくり見入っていました。そして2月14日。パンジーバスで「あゆむ」に向かう途中、Kさんと介護者でチョコやひなあられの話しをしていると、介護者の「チョコあられ」との言葉に、Nさんも「チョコあられ」と返し、自分のカバンからそっと、昼休みに買ったと思われる「クレヨンしんちゃんお父さんチョコ」を取りだし、おもむろに私たちにも見せてくれました。さすがはNさん、抜け目なし。

その夜、あゆむ住人のYさんが「チョコレイトは明治～」と歌っていると、Nさんはまたもやおもむろにカバンからチョコを取りだし、丁寧に包みを開けて「パク」。我々にもおすそわけしてくれました。その顔のなんて幸せそうな…。バレンタインの終わった今、彼女は買い物ではいつも、ひなあられの売り場をのぞいています。

深田みゆき

厨房より

月末になると、頭を悩ませながらも楽しいメニューづくりがあります。パンジーⅡでは、配食サービスを行っているので、お弁当メニュー中心になっています。そのため、配食のない週に1回ほどメンバーの希望を取り入れることができます。

先日、メンバーに「食べたいものアンケート」をしました。「グラタン」「ステーキ」「ビビンバ丼」などいろいろな答えがかえってきて嬉しくなりました。中には「キャビア」というのもあり、びっくりしてしまいましたが。

先回のパンジーだよりで、パンジーからにもありましたが、肥満防止も心がけながら、皆の希望も取り入れたメニューづくりをしていきたいと思います。もううぐ春がやってきています。先日は「菜の花」がメニューとなり、少しづつ春らしさを感じながら楽しんでいます。



いちねんをふりかえって

「パンジーをかえる会」発足以来、色々なことを当事者間で話し合ってきました。不安な気持ちを素直に出し合い、何度も話し合って「できることからやっ払いこう」と思えるようになりました。今、「みんなでがんばろう」と元氣です。

一年を振り返って思うこと、これからやっ払いみたいことを聞きました。

梅原 4月から新しいメンバーが来て、一年間始まってがんばった。これからはどら役会をもっとふやして、ここで話し合っ払いいたらいいと思う。リーダー決めたやろ。リーダーは皆をひっぱってほしいなあと思う。僕もがんばるけど皆もがんばってほしい。今度、新しいメンバーも7000円になるから一緒にがんばろう。グループホーム、うまくいっ払いいる。僕の部屋の改造を今してる。もうちよっ払いでできる。

岡本 どらえもん会でよく話し合っ払いしたのは給料のこと。もっとチョコレート売っ払い、少しでも大東市役所とかで販売していきっ払い。今度、グループホームのリーダー。皆を助ける。

溝端 パン生地を計っ払いりできるよっ払いになった。カラオケが一番好き。

田辺 初めはあんまりにもがんばりすぎで疲れていっ払い。今はしんどい時は休憩しているからしんどくない。クリスマス会のサックスは皆にかっ払いいいと言われっ払いうれしっ払い。したいことは、パン屋で計る仕事をしたい。

平川 いつもパン丸めていっ払い。あんこを混ぜていっ払い。いつもカラオケでライオンハート歌っ払いてるから、太陽にほえろとか、ラジオ体操とか入っ払いています。

河野 パン屋の配達が好き。車に乗るのが好き。(ハンガールの仕事は)好きじゃない。

好川 仕事見っ払いつかっ払い働きたい。この間はお金をトラックに積み込んだ。しんどくなっ払い、楽しっ払い。仕事を沢山して(就職して)パンジーにも来っ払い。さをり、糸選ぶの、楽しい。色選ぶ時、見ていっ払いひらめく。

青山 パンのリーダーで、僕と富田さんと梅原君です。今はお金7000円だから、多くなっ払いるようにがんばる。皆もがんばっ払いてるけど、僕は年くっ払いてるからがんばれない。皆もがんばっ払いもらっ払い。食パンやあんぱんとかをやりっ払い。

田中 1年間面白っ払い。友達もできた。

富田 パン丸めることと洗い物をする。パンジークロスの三つ編みとか編めるようになりたい。

宮田 最初入った時、わからなかったけど、あんを混ぜたり、メロンの皮丸めたい。いろいろな人がいるけど、平川さんのものまね、面白い。衛生に気をつける。いろいろな人と友達になりたい。「げんきのでる話」で講演活動したい。

小松原 最初は怖かったけど、今は怖くない。ひとり、寝屋川離れたことがなかったの。4月からもがんばりたいと思います。

西田 パンジーⅡに来て良い所だと思った。ごはんがおいしい。ハンガーをやりました。4月からは配食をがんばりたい。

福田 ハンガーと弁当をがんばりたい。弁当作りをがんばりました。

野畑 ひろっちゃんとこのパンの配達もつと行きたかった。パンジーⅡはすばらしいわ。4月からはわくわくで映画に行きたい。内海ちゃんと遊びたかった。

栗岡 パンジーⅡ、最初は暇やなあと思った。退院してきた時は皆が自分でやろうとしているのでびっくりした。仕事には責任を持ってやるようにできたらいいなあ。

肌勢 4月にパンジーⅡできて、パーティーやった。あれがよかった。ビールとか飲んで楽しかった。

西尾 ハンバーグ弁当で配達、失敗した。今度から失敗せんようにしたい。会議の報告とかがんばった。来年は今年以上にがんばります。

表 いろんなことがんばってリーダーもやった。いろんなことやりたいです。

ピープルファースト大会in東京報告

デートゲームとダンスパーティにわかれた。年の所に「人の年尋ねるにはまず自分の年齢から名のるのが礼儀」って言いました。係りの人が「ここ年書く所なんですけど」って言いました。

中山さんが舞台に立って発表しました。栗岡さんが大切な友達だと思いました。私(俺)も友達と思ってほしかったです。

(東)

第2回ガイドヘルパー研修会報告・故佐藤賢一さん追悼 『自立への想いと闘い』

～誰もが地域であたりまえに生きていける社会を求めて～

1月27日、2000年度2回目のガイドヘルパー研修会を行いました。つばさグループ「フレンズ」及び自立支援センター「ばあとなあ」の代表である佐藤賢一さんにお願ひし、『自立への想いと闘い』というテーマで講演していただきました。佐藤さんは去る3月11日に急逝され、この講演は彼が私達に残してくれた貴重な「生の軌跡」となりました。あまりにも若くして逝ってしまった佐藤さん。今でも信じられない気持ちと喪失感でいっぱいです。佐藤さん本当にありがとうございました。その講演の概要をお伝えします。

【生い立ちから自立の家「つばさ」に至るまで】35年前に八尾市で生まれ、小・中・高は養護学校で過ごしたこと。月に1回、養護学校の近所の小学校との交流は、「見世物」的で、お祭り騒ぎの様な感じで行くのが嫌だったこと。中学校の時、東大阪養護に移り、初めて教科書を見て、漢字も読めなかったことなど、訓練中心で地域とのつながりの無い学校生活について語られました。学校を卒業して廃品回収や自然食品の販売をやっている作業所に通うようになったこと。学校に牛乳を配達したりして先生と関係ができていったが、その作業所はスタッフと当事者との関係が「先生」と「生徒」という関係、親がこどもを預け、作業所が預かるという関係だったこと。そのころまで、「指示される」「指導される」ことに疑問がわかかなかったが、84年くらいから楠さんたちと一緒に障害当事者が中心になった作業所、運動拠点を作ろうという勉強会をやり、制度や自立生活について考え、自立の家「つばさ」をスタートしていったことなどを話されました。そして、「つばさ」発足とともにアパートを借りて自立生活をはじめたこと。「介護者探しが自分の一生の仕事だと思った」と自立障害者にとって介護者の確保がいかに切実かという話がありました。

【「フレンズ」から自立支援センター「ばあとなあ」の設立】【介護者、健常者に伝えたいこと】では、障害者の自立支援の活動を中心に行ってきたこと。東大阪は貧困な制度しかないが、その制度すら知らない人が多いのが現状であること。相談業務、自立生活プログラムを通して、地域の障害者が在宅から、街に出ていく方法を一つ一つ身につけて自信をつけてきたこと。また自立体験を通して、自分のして欲しいことを介護者に伝える経験を積んできたこと等の報告がありました。当事者と介護者との関係について、「障害者は周りの人から『できない』と言われ続けてきた。できないから、下を向いて生きなあかんというのは違う。介護者に『お金払っているんやからオレの言うこと聞け』というのも違うと思う。お金は契約、責任をもってやってもらうための保障と思っている」「最初は介護者に口答えできなかった。ケンカしたら関係が切れるのと違うかと不安だった。だけど人間と人間のつきあいは、そういうのを越えて初めて親密になれた」と介護者や健常者との関係に悩んできたことを率直に話してくれました。 (豆子)

佐藤くんとの出会いは現在から約14年前の1987年の春でした。それまで畑違いの仕事をしていて、介護のかの字も知らない私が友人の紹介で自立の家「つばさ」に来たのが最初でした。今思えば、福祉の世界などまったく知らなかった私が「つばさ」を知り、そして佐藤くんに出会えたことは、本当に幸運だったと思っています。なぜなら佐藤くんが自分自身の生き方そのもので、私に多くの事を教えてくれ、その事が今では私にとって最高の教本となり、財産となっているからです。

出会った当時、佐藤くんはすでに作業所のすぐ近くの文化住宅でひとり暮らしを始めていました。その頃、東大阪市内で佐藤くんのように重度障害者で介護者を入れながら、自立生活をしている人はほとんどいなかったように思います。むろんそのような状況の中、障害者が地域で自立生活をしていくための制度などほとんど無かったのですが、自分の生活の一つ一つ形作りながら、同時に他の仲間たちを励まし、勇気を与えてきた、言うならば、彼は市内における当事者運動を切り拓き、引っ張ってきた中心的存在だったと私は思っています。

バンジーの当事者の中にもそんな彼と親交の深かった仲間が何人かいます。生田さんや一男くん、西尾くんなどがそうですが、約一年半前に亡くなった、みどりさんも古くからの友人の一人でした。とくに生田さんは、長年佐藤くんとは家が隣同士であったこともあり、親しい間柄だったと思います。みんなそれぞれ佐藤くんに残りて地域で自立生活を始め、その後、知的障害者の当事者運動のリーダー的存在として活躍しています。

「佐藤くん」、バンジーではもうすぐ5つ目のグループホームがスタートして、また新たに地域で自立生活を始める仲間が増える予定です。最初のグループホーム「つばさ」がスタートした当初、まだ介護体制が整わなかった時、佐藤くんはよく自分の介護者と一緒にグループホームの介護に入りに来ていたことを、懐かしく思い出します。あれから約10年、佐藤くんが最初に切り開いてきた「障害者も地域で共に生きる」という理念は、着実に仲間から仲間へそしてまたその仲間へとひろがってきています。

通夜と告別式では、会場に入り切れないぐらいたくさんの人たちが、佐藤くんに会いに来ていました。老若男女、本当に様々な参列者を眺めながら、改めて佐藤くんの人柄と存在の大きさを実感しました。

(山本 寿)

2000年度 つばさグループ 東大阪市交渉報告

2月16日に、クリエイティブハウス「パンジー」・「パンジーⅡ」・フレンズ・RAN（ラン）・らくらくハウス・自立支援センター『ばあとなあ』の6団体からなる「つばさグループ」と、東大阪市の福祉部を中心とした、障害者福祉施策に関連する担当部署との間で、交渉の場を持ちました。



「つばさグループ」からは、ホームヘルパー・ガイドヘルパー制度の派遣時間帯・派遣回数・時間数の拡大や、早朝・夜間・休日・緊急時の派遣、同性介護の実施、知的障害者ガイドヘルパーの対象を中軽度知的障害者にも拡充すること。複雑になった、ショートスティの申し込み手続きを簡素化すること。市町村障害者自立生活支援事業については、ピア・カウンセリングや自立生活プログラムなどの事業実績を評価し、地域に根ざした障害者団体に委託すること。

「交通バリアフリー法」の実施に向けて、東大阪市新庁舎へのアクセスになる近鉄荒本駅のバリアフリー化や、民営バス会社によって新規購入されるバスは、ノンステップ車両にすることなどを東大阪市が指導すること。知的障害者のグループホームの立ち上げにともなう民間住宅活用における敷金の補助や、家賃の補助をすること。就労支援に対する積極的な公的支援の強化をすることなどを東大阪市に対して要求しました。

パンジーの当事者からも積極的な発言があり、「Bの手帳でもガイドヘルパーを使えるようにしてほしい」「グループホームの風呂が狭くて入りにくい」「会社で働きたい・就職してお金か稼ぎたい」など、いま自分たちがおかれている状況からの切実な思いを伝えました。これらのことはすべて毎年継続して要求していることであり、実現されていかなければならないことだと思えます。特にグループホームの公的支援の強化や、ガイドヘルパーの対象を中軽度知的障害者にも拡充することなどは、知的障害者の社会参加や自立するための社会資源として、一番身近なものであるとともに、有効な手だてなので速やかな対応を望みたいものです。対東大阪市交渉については今後も当事者・保護者・支援者が一体となった取り組みとして、他の団体とも連携をしながら引き続きおこなっていきたいと思います。

(大北)

オシッコの話し

中新井滯子

知っている人はよく知っているし、知らない人は全く知らない（アタリマエ！）ことです。私の夫は東大阪市療育センターの初代センター長（1980-1981）で、その前は金剛コロニーの療育部長（1976-1979）で、その前もその間もずーと泌尿器科の医師でした。だから、当然のことながら「オシッコ」には少々うるさい、量とか色とか出方とか。彼曰く、健康なオシッコは決してきたなくない。汗と一緒にでなくても平気、その上オシッコはえらい、身体の不調を教えてくれる。オシッコが出なくなると命にかかわる、まさにオシッコサマサマなのだ。キャンプの時など、紙コップの代わりに尿検査のコップを平気で使ったりする人でした。泌尿器科医が知的障害児の療育にかかわるようになったのも「オシッコ」でした。

1960年代、養護学校に入学できたのは、3日間の選抜観察に合格した子どもだけ。障害の重い子どもを教育するのは施設しかなく、そこさえも排尿の自立が条件になっているところがあった。1974年、当時二分脊椎の子どもたちに排尿のコントロールの治療や訓練をしていた夫のもとに、知的障害の子どもと両親が思い余って相談に来たという。「オムツがとれないと施設にも入れない。わしら年とったらどうしよう」と。16才の息子のおしりにはいくつかのお灸の跡が痛々しかった。

知的障害が重いというだけで、学校からも施設からもその前に医療スタッフからも、その果てに親からも切り捨てられている子どもがいる。医師になって16年、自分も今までその子ども達に何もしてこなかったーこの痛恨の思いが夫をして知的障害をもつ人の側に居てその生活を支える医者になろうと決断させたのです。

すっかり前置きが長くなりました。「オシッコ」の話になると、どうしても亡夫のことが思い出されて私自身も熱くなってしまいます。もっと続きを知りたい方は、向井承子著『たたかいはいのちの果てる日まで』を読んで下さい。

障害の重い人たちは、身体の不調を訴えにくく、特に尿路系の病気はなかなか症状が出なくて、潜伏しながら悪化する。時にはオシッコに敬意を表して、色、臭い、量、出かた回数などに注目してほしい。

Bさんの場合、急に失禁が多くなり、そのためかイライラしたり落ち込んだりしていた。泌尿器科受診の結果、前立腺炎と判明、服薬治療で情緒的にも安定してきた。医師の話では脳性麻痺の人は発生しやすいとのこと。訴えはなかったが、それまでも不快感等あったかもしれない。Cさんは時々コーラ色の尿が出る。はじめは血尿かと思ったが、尿検査の結果、ミオグロビン尿症が疑われている。今、家族とともに腎機能を守るための対応を考えているところである。

書き損じハガキ、(未使用)切手を送ってください!

ご家庭や会社などで書き損じのハガキ、スタンプを押していない切手など眠っていませんか? 自立生活部門ではこれらを集めて活動資金にあてたいと思っています。ご協力をお願いします。

ご協力ありがとうございます

〈後援会費を振り込んでいただいた方〉(敬称を略させていただきます)

中藤加奈子

〈カンパ・寄付をいただいた方〉

佐藤かよし 赤川由里子 水越恵美 楠永哲夫 石崎邦彦

〈書き損じハガキ・未使用切手・未使用テレホンカードをお送りいただいた方〉

東澄江 田村崇 坂本吉章 訓覇浩 長尾佳津子 岡本晶子 西尾心治 原章子

甲田浩子 伊与田 木村多加緒



パンフレット・『“自己実現を展く環境”を創る』 定価1000円

パンジーの7年のあゆみや取り組んできたことを、パンフレットにまとめました。『パンジーだより』に連載した「言葉とコミュニケーション」を、「みずな&ガーリックくん」として、かわいいイラストと共に新たに掲載しています。今後は、10月21日のシンポジウムをふまえた本を発行する予定です。おたのしみに!

パンフレットをご希望の方は、パンジーまでご連絡下さい。

TEL 0729-63-8818 FAX:0729-63-8825 E-mail pansy@yb3.so-net.ne.jp

「障害者自立相談のるで！」 自立生活支援センターわくわく

自立支援、在宅で行くところを探しているなど、さまざまな相談に応じています。生田進の相談日 毎週水曜日午後 (無料)

TEL 0729-60-3611 FAX 0729-60-3613 E-mail wakuwaku@abox.so-net.ne.jp

パンジーでは、
後援会員を募集
しています

賛助会員	1口	1ヵ月	500円
本会員	1口	1ヵ月	1,000円
特別会員	1口	1ヵ月	5,000円
郵便振替番号	00950-1-300551		
クリエイティブハウス「パンジー」			

編集人 東大阪市東鴻池町2-4-8
クリエイティブハウス TEL:0729-63-8818
“パンジー” FAX:0729-63-8825

発行人 関西障害者定期刊行物協会
大阪市東中浜2-10-13
緑橋グリーンハイツ1階